今月は環境ストレスによる細胞のタンパク質合成抑制に関する研究をご紹介します。本研究は細胞レベルの研究ですが、この研究結果は、今後、人間のメンタルな反応によっても同様の傾向がみられるかなど、様々な展開が期待される研究です。コルチゾールやセロトニンなどストレスホルモンが注目されて久しい今、あたらしい研究指標の台頭により、メンタルヘルス分野の研究へも大いに寄与する可能性が期待されます。また、人が過度なストレスにさらされることとタンパク質合成反応との解明が進み、認知症やパーキンソン病などとの関連が解明されれば、将来的には薬剤開発などにつながる可能性が示唆される研究です。是非お読みください。

ストレスでタンパク質合成が止まる仕組み
－たった 1 カ所のリン酸化が招く翻訳開始因子複合体の構造変化－
^^^